

【授業テーマ】中学校第1学年歴史的分野「東アジアとの関わりと社会の変動」における知識・技能を習得し、活用する学習指導の工夫

第1学年1組 社会科学学習指導案

指導者 松崎 巧

1 単元名 東アジアとの関わりと社会の変動

2 目標

- (1) 武家政権の成立後の政治，社会，文化の動きに対する関心を高め，意欲的に追究し，文化遺産を尊重しようとする。 【関心・意欲・態度】
- (2) 武家政権の成立後の政治，社会，文化の動きから課題を見だし，歴史の流れと時代の特色を多面的・多角的に考察することができる。 【思考・判断】
- (3) 武家政権の成立後の政治，社会，文化の動きに関する様々な資料を収集し，適切に選択して活用するとともに，追究し考察した結果をまとめたり，説明したりすることができる。 【技能・表現】
- (4) 武家政権の成立後の政治，社会，文化の動きを我が国の歴史と関わる東アジア世界の歴史を背景に理解することができる。 【知識・理解】

3 単元について

本単元では鎌倉幕府の滅亡から応仁の乱後までの武家社会の展開を理解させるとともに，その間の東アジア世界との関わりに気づかせ，さらには諸産業の発達と社会の変化を理解させ新たな文化の特色について考えさせることをねらいとしている。室町時代は，武士だけでなく民衆にも活力があり，民衆の地位が大きく向上した時代である。農村では村ごとの自治が行われ，貿易で栄えた都市では町衆と呼ばれる裕福な商工業者によって町の政治が行われ，民衆による一揆も多発した時代である。産業の発展とともに民衆が成長したことにより地方の文化が発達し，今日の文化にも大きく関わっている。時代の流れを中心に政治・外交面と社会・文化を調べることで，室町時代の特色や時代の変化をとらえることができる単元である。

表1の実態調査1，2からは，社会科の授業においては37人の生徒から大半の生徒はめあてや課題を意識して授業に取り組んでいるが，課題が単なるお飾りお題目となっている生徒もいる。これは与えられた課題であり自分が切実にとらえた学習問題ではなく，学習への関心や意欲の低さにつながるといえる。

実態調査3，4，5からは，調べた結果，自分の考えを発表したり友達とかかわり合って学習を進めたり，友達の意見を参考にして自分の考えを広めたりすることが苦手な傾向が見られる。その理由として，調べ学習において自分のしっかりとした学習問題を持って，知識を習得したり，話し合いの視点が明確でなかったため考えをもつことが十分でないことが考えられる。

そこで，本単元では，まず，小学校での学習内容を踏まえ，金閣寺・銀閣寺などの資料をもとに室町文化を学習し，室町時代への関心を高めた上で，単元を貫く学級全体の学習問題

表1 社会科の授業に関する実態調査
(平成21年9月16日実施第1学年1組37人)

1 授業中，めあてや課題を意識して学習していますか	はい 4	やや 23	あまり 10	いいえ 0
2 自分で学習問題を作ることができますか	はい 2	やや 17	あまり 14	いいえ 4
3 分かったことを教え合ったりすることが好きですか	はい 5	やや 10	あまり 19	いいえ 3
4 自分と友達の発表(考え)を比較して聞いていますか	はい 6	やや 16	あまり 14	いいえ 1
5 友だちの考えを参考に自分の考えを見直していますか	はい 5	やや 19	あまり 10	いいえ 3

を設定する。次に、ワークシート年表を使って室町時代のできごとを中心に歴史を大観し基礎的・基本的となる知識を習得させ、その上で生徒一人一人の学習問題を設定し、調べ学習に移る。調べ学習では、学習指導要領に示されている政治・外交面と経済・社会、文化の学すべき内容を教科書から義満の頃、義政の頃、社会の変化の3つの側面から再構成し、調べ、話し合いをさせる。調べた歴史的事象（知識）は各自の情報として伝え合い、友達と話し合うことで習得した知識・技能へと高まるだろう。そして、各自が習得した知識は基調提案を通して発表させ、話し合い活動を取り入れたりすることで歴史的事象に関する見方や考え方を深め、室町時代の特色を再構築させたい。結果、室町時代は東アジアとの交流により武士の活力ばかりでなく、民衆の地位も高まり、応仁の乱は民衆の地位の向上や文化にも影響を与えたことなどの関連に気づき、最後は一人称で室町の時代観をまとめることができるようにする。また、導入（つかむ）で学んだ今に残る室町文化を今後、私たちはどのように後世へ伝えるかを合わせて考えさせたい。

このような学習活動を展開することで、習得した知識や技能を繰り返し活用することを通して本テーマに迫りたいと考えている。

4 ねらいに迫るための具体的な手立て

(1) 知識・技能を習得するための学習活動

① 学習問題とは、生徒に問いや疑問をもたせ、学習活動を方向付けるものである。調べ学習を進めていく上では、何のために調べ学習をしているかを見失わないために必要である。本単元では、単元全体を貫く学級全体の学習問題「室町時代の文化が今も全国に残っているのは、室町時代はどんな時代であったからだろうか。」を生徒とともに設定した上で、生徒一人一人が自らの学習問題を設定する。この二つの学習問題を常に意識して問題解決的な学習を進めることで、知識・技能を習得させていく。学習問題を設定するにあたっては問題作りのヒントカードを用意する。

② 歴史年表ワークシートを使って時代を大観させ、時代の大まかな流れを理解するとともに、各自の学習問題と文化を常に意識させる。

③ 学習問題が設定され、いざ調べ学習にはいると学習課題からそれたり、調べる視点はずれたりする生徒が出てくると考えられる。そこで調べ学習のヒントシートや調べるための図表や文書資料などを用意することで各自の学習問題に取り組みさせる。

(2) 習得した知識・技能を活用する表現活動

① 基調提案による表現活動の工夫

自分の調べた歴史事実をもとに考えを表現する活動として基調提案を取り入れる。お互いの交流を深めながら自分の考えを表現し、話し合い、意見の交換をすることで、他の生徒の考えと比較し、時代の流れや調べたことを再構成させる。話し合う場面においては話し合いのマニュアルを配布し、室町時代の相互の関連付けることで自分の考えを深めさせたい。

② 各自の室町時代に対する時代観をまとめる

学習のまとめでは、自分で調べたことや他の人の調べたこと、考えたことなどを活用し、自分のことば(一人称)で室町時代の時代観をとらえさせたい。その際、各自が調べたこと、話し合ったり聞いたりしたこと、最後に自分の時代観を記入することのできるまとめのシートを用意する。

(3) 学習カードを用い自己評価、振り返りを図る

生徒の活動を見取り、学習問題に対してどこまで達成しているのか、また、つまづいて

いるのかを知り、学習の改善に生かすために自己評価カードを活用する。1時間毎に単元を貫く学習問題や各自の学習問題に照らし合わせ自己評価させ、質問や疑問には朱書を入れて返すことで生徒の学習を見取り、支援する。

5 学習計画及び評価規準（7時間取り扱い）

〔関〕・・・関心・意欲・態度 〔思〕・・・思考・判断 〔技〕・・・技能・表現 〔知〕・・・知識・理解

次時	主な学習活動	評価規準（評価方法）
1	1 今に残る室町文化について知る。 2 室町文化から単元を貫く学習問題を設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">室町時代の文化が今も全国に残っているのは、室町時代がどんな時代であったからだろうか。</div>	〔関〕 今に残る室町文化を知ろうとしている。 〔思〕 室町時代の時代観をつかむための単元を貫く学習問題を設定している。（発表）
	2 1 南北朝時代から応仁の乱までの歴史の流れを大観する。 2 単元を貫く学習問題を解決するための各自の学習計画と学習問題を設定する。	〔知〕 南北朝時代から応仁の乱まで主な歴史的事象を理解する。（ワークシート，発表） 〔思〕 単元を貫く学習問題解決のための各自の学習問題を設定している。（学習計画表）
2	3 1 金閣の頃の時代（14世紀末～15世紀前半）を調べる。	〔技〕 資料を収集し、活用するとともに、まとめたり、説明したりしている。（ワークシート） 〔知〕 政治，社会，文化の動きに関する歴史的背景を理解する。（ワークシート）
	4 2 室町時代の人々の生活の様子を調べる。	
	5 3 銀閣の頃の時代（15世紀後半）を調べる。 6 4 単元を貫く学習問題に対しての基調提案原稿を作る。	〔思〕 調べた歴史的事象を関連付けて考えている。（発表，話し合い）
3 本時	7 1 単元を貫く学習問題に対する基調提案を行う。 2 基調提案に対する話し合いを行う。 3 各自が室町時代に対する時代観をまとめる。	〔思〕 基調提案をもとに習得した知識を関連づけて，室町の時代観をまとめている。（ワークシート）

6 本時の指導

(1) 目標

単元を貫く学習問題に対して基調提案をもとに今までに習得した知識を関連づけ，室町時代の時代観をまとめることができる。

(2) 活用の視点

基調提案と自分の調べたことを関連づけ，生徒一人一人が室町時代の時代観を形成する。

(3) 準備・資料

話し合いのマニュアル、自己評価表、板書構成図、室町文化写真・短冊

(4) 展開

※ 配慮を要する生徒

学習活動・内容	指導上の留意点及び評価
<p>1 単元の学習問題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"><p>室町時代の文化が今も全国に残っているのは、室町時代がどんな時代であったからだろうか。</p></div> <p>2 本時の学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"><p>室町時代の時代観をまとめよう。</p></div> <p>3 単元を貫く学習問題に対して基調提案を行う。</p> <p><金閣の頃の時代からの提案></p> <ul style="list-style-type: none">・日明貿易により巨額の富を得た義満が金閣を建てるにあたり金を精錬する手工業者が活躍した。 <p><室町の人々の様子からの提案></p> <ul style="list-style-type: none">・商人や工業者、農民など地位が向上し自治的な座や惣にみられる組織が生まれ、庶民の文化が発達した。 <p><銀閣の頃の時代からの提案></p> <ul style="list-style-type: none">・応仁の乱を避けるため京都の貴族が地方へ下り、京の文化が広がるともに、京の復興には町衆が活躍した。 <p>4 基調提案をもとに、室町時代の時代観について話し合う。〈話し合いの視点〉</p> <ol style="list-style-type: none">①東アジアとの関係や経済の成長と文化②産業の発達や民衆の成長と文化③応仁の乱や民衆の一揆と文化 <p>5 室町時代の時代観を各自でまとめる。</p> <p>6 学習のまとめと振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none">・自己評価表に本時の学習の振り返りをする。	<ul style="list-style-type: none">・今に残る室町文化を写真資料等を掲示し、単元を貫く学習問題を解決するために自分のまとめたポイントをイメージさせる。・前時までの学習を確認し、各自が習得した知識を活用して課題解決を図ることを伝え、学習の意欲を高める。・発表者への励ましと聞く生徒に対しては学習問題との関連に注意して聞くように指示する。・発表者のキーワードを黒板に構造的に記載し聞いている生徒が理解しやすいようにする。・各自の習得した知識を互いに発表させ、意見の交換を図り、関連を図る。黒板に関連する矢印を入れ、理解しやすくする。・学級全体で話し合わせることを基本とするが、話し合いが進まない場合には、グループ内での話し合いに切り替える。・話し合いを参考に、室町時代の時代観をまとめるよう声をかける。 <p>※ まとめられない生徒には板書事項を参考に箇条書きで記入するよう助言する。 〔思〕基調提案をもとに知識を関連づけて時代観をまとめている。(ワークシート)</p> <ul style="list-style-type: none">・自己評価表に記入しながら、単元全体の学習活動の振り返りができるようにする。